

市民を守る！

新型コロナウイルス感染症対策



総務委員会

市民を守る！

新型コロナウイルス感染症対策



総務委員会



◆あなたの夢、◆
描いたつづきは
◆掛川で。◆



市民を守る！



総務委員会

新型コロナウイルス感染症対策

鷺山喜久

大石 勇

鈴木正治

藤澤恭子

総務委員会

委員長 小沼秀朗

副委員長 松浦昌巳



新型コロナウイルス感染症 掛川市の状況と対策



	1例目	感染者数	回復者数	死亡者数
全国	1月15日	93,108人	85,573人	1,671人
静岡県	2月28日	577人	558人	2人
掛川市	4月12日	15人		0人

新型コロナ緊急支援対策室を設置 5月1日



①特別定額給付金の給付業務

- ・融資（掛川市小口特別資金利子補給金、
掛川市経済変動対策貸付金利子補給金）
- ・給付金（小規模企業者等応援給付金）
- ・助成金（掛川市ポストコロナ経済活動助成金）

②緊急支援に関する窓口の一本化

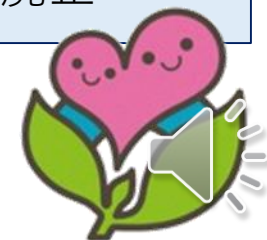
- ・個人向け、事業者向け各種相談
- ・外国人対応
- などの相談窓口

※緊急支援対策室は令和2年9月30日に廃止



2020年10月18日現在

相談コーナー
にて状況確認





掛川市議会のコロナ対策



- 広い会議室を使用し、風通し良く、席の間隔を開けて会議を開催。 ～三密回避策～
- 議場での密を避けるため、一部の内容を半数の議員が議場外にて審査。（モニター視聴）
- マスク着用、手指の消毒を徹底。
- 議場内にシールドの設置。
- オンライン会議の導入・・・など



市議会傍聴時の予防策

- 傍聴の際には「マスクの着用」「手指の消毒」「受付時の検温」をお願いしています。
- 傍聴席は間隔を空け、傍聴者が多数の場合入場制限をさせていただきます。
- 本会議のインターネット中継及び録画配信での視聴を推奨しております。
- 託児サービスは当面、見合わせをしています。

市議会の議会費のうち

議会運営費	・・・	3,184,000円
議員研修費	・・・	4,261,000円
期末手当	・・・	3,156,000円
合計	・・・	10,601,000円

⇒を削減し、コロナ対策に充当をしました。



総務委員会のテーマ

市民を守るためには？を議論中です

大きく分けて…

1. コロナ禍における災害時避難所運営について
 2. コロナ禍での外国人対応について
 3. ポストコロナを踏まえた第2次掛川市総合計画について
 4. 令和3年度財政見通しについて
 5. 新しい生活様式と新たなまちづくりの研究について
- 等の項目を、担当課との協議やリモートによる先進地事例を視察するなどして調査・研究を行っています。

その一部内容をご紹介します。



1.コロナ禍における災害時避難所運営について



避難方法が変わってきています！

- ①自宅のある場所の危険度を知りましょう
- ②自宅が安全なら、在宅避難（垂直避難）
- ③縁故避難（安全な場所の親戚や知人友人宅へ避難）
- ④車中泊（駐車場、広場）
- ⑤地域の避難所（公会堂、コミュニティセンターなど）
- ⑥広域避難所（小中学校、高校、公民館など）



（例）発熱者隔離用にテント利用

避難所運営訓練実施

8/30掛川市総合防災訓練の検証

反省点や課題は？

- ・健康な方と発熱等の症状が出ている方の誘導方法
- ・避難スペースの作り方
- ・検温など受付時の密状態
- ・外国人対応
- ・コロナ対策で十分な訓練ができない
- ・インフルエンザ等の感染症対策も検討すべきでは？

その他課題

- ・在宅避難～広域避難の方法の周知
- ・隣接地区との連携
- ・縁故避難者の確認・連絡方法

などなど・・・
議員から多くの
意見が出ました



1.コロナ禍における災害時避難所運営について



総務委員会としての意見

- ・ 広域避難所ごとのマニュアル見直すと同時に、掛川市全体で課題共有し、感染症対策を考慮した複合災害対応マニュアルを早期に作成するべきである。
- ・ 外国人にもわかりやすい案内掲示板等を作成し、誰一人見捨てることのない対策が必要。
- ・ 避難方法の周知について、市民に対して情報発信を徹底すべき。
- ・ 地形を考慮し地区をまたいで隣接避難ができる避難所間の連携体制の強化。 等々

多くの意見を元に
複合災害対策への協議を深めます



2.コロナ禍での外国人対応について



外国人対応部署へアンケート調査した結果と課題

- ・ 相談内容でもっとも多かったのは生活資金について（背景に派遣社員見直し、雇止め等）
- ・ 相談窓口に外国語通訳者を配置したことは良かった
- ・ 常に外国語通訳者を配置出来ない
- ・ 携帯アプリやタブレットの利用を検討したい
- ・ 助成、給付、減免等情報の周知は日本人と同等に伝わっている（口コミ伝達力が強い）

総務委員会としての意見

- ・ 外国人にもわかりやすい情報発信の確立
- ・ 通訳者配置体制への改善
- ・ 翻訳アプリやタブレット導入に加えわかりやすい日本語での案内マニュアルを導入すべき。
- ・ 日頃よりコミュニケーションがとれるよう自治会加入率を上げることが必要ではないか？



3.ポストコロナを踏まえた第2次総合計画の改定

ポストコロナかけがわビジョン検討室を設置

第二次掛川市総合計画 2021 ver.～ポストコロナかけがわビジョン～を策定



ポストコロナ時代の視点から

第二次掛川市総合計画の見直しを実施

- ・ デジタル化、オンライン化の推進
- ・ 地域内経済循環、地域循環共生圏の実現
- ・ 社会を支える新しい働き方
- ・ 東京一極集中から地方分散へ、本格化する地方創生に向けての受け皿の構築

ポストコロナの未来を見据え

掛川市の方角性を示す



総務委員会の意見

- ・ デジタル化の格差を極力抑えるべく生活弱者やマイノリティの皆様が利用しやすい推進方法、周知に努めるべき。
- ・ デジタル化の推進と同時に、今まで以上に人と人との心の交流を大切にする施策が必要でないか。
- ・ 総合計画審議会メンバーにデジタル化や、ニューノーマルな時代に向けた優れた人材も加えるべきではないか。
- ・ 感染症を含めた、地震や津波、豪雨災害への複合災害対策を計画改定に明記すべき。
- ・ S D G s と地域循環共生圏については、シュタットベルケ（掛川新電力会社）の推進も計画改訂に盛り込めないか。

4.令和3年度財政見通し



令和2年度財政状況

当初予算は、**過去最大規模の507億8千万円**
前年度対26億3千万円増、5.5%増でスタート

一般会計予算

646億円

(10月1日現在)

8回の補正予算

「令和の新時代 サスティナブルなまちづくりスタート予算」

当初予算＜増＞の内容

人件費

会計年度任用職員制度の施行に伴う増、退職手当の増

扶助費

幼児教育無償化・施設増による給付費等の増

普通建設事業費

横須賀及び智光こども園建設事業の進捗に伴う増

海岸防災林強化事業費、道路橋梁の整備及び耐震補強費の増

新型コロナウイルス感染症対策を中心に
9月定例会までに8回の補正予算



コロナ対策財源確保のため



- ・地方創生臨時交付金、国庫補助金、
財政調整基金の取り崩しにて充当

その他

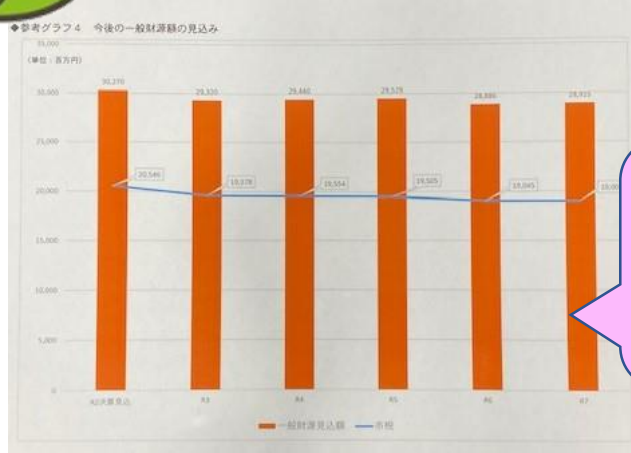
- ・既決予算事業の中止や、縮小
- ・特別職及び管理職手当の減
- ・議会期末手当減
- ・議会活動費減 など

合計8.2億円の確保対策を講じる。





4.令和3年度財政見通し



リーマンショック時
より状況は深刻！
楽観視できない。

掛川市令和3年度予算の展望 ウィズ＆ポストコロナ時代へ向けて



- ・ **市税収入の減**（予測）
＜ R2当初207億円→R3当初195億円見込み＞
- ・ 新たな日常に対応する予算配分を検討する
- ・ 財源の確保
- ・ 事業計画の見直し
- ・ ポストコロナを見据えた施策の必要性

総務委員会の意見

- ・ コロナ禍の影響が長期にわたることを想定し全庁連携した財政計画をたてること
- ・ 都市部からの転入人口増加策を先駆けて「歳入増」につながる政策を実現すること
- ・ 委託事業などは極力、市内業者を選定し市内経済循環策を構築すべき
- ・ 公共施設の民営化はじめ、大胆な「歳出改革」が必要ではないか？
- ・ 事業の休止、規模縮小は市民活動の低下や不満を引き起こす。少ない予算でも市内が活性化する知恵を出し合い**心満たす施策**を！

**ポストコロナ時代
かけがわNEXTステージへ！**



5.新しい生活様式と新たなまちづくりの研究

先進地施設のリモート視察をしました

とよたエコフルタウンリモートガイドツアー

愛知県豊田市が取り組む「持続可能な豊かな暮らし」の事例が体感できる施設です

豊田市が取り組む3つの重点分野は

エネルギー **モビリティ** **ウェルネス**

- ・都市と山村、つながるまちづくりでSDGs達成を目指す
- ・50年後の未来を考えた、環境技術、循環型社会
- ・電動モビリティを活用した先進技術を体感

豊かな暮らしとは？

豊かな人こそが
豊かなまちを作る

総務委員会としての意見

- ・50年先を見据える難しさ
- ・コロナ対策や災害時にはハイブリッド車は有効
- ・豊田市（先進地）でも市民へのSDGsの浸透は困難。いかに伝え、市民のモノとしていくのか課題がある
- ・SDGs未来都市選定の責任の重さを痛感した
- ・最先端とは物の豊かさではない





総務委員会の調査研究は続きます！



- コロナ感染症拡大の影響は、長期にわたることを想定している
- コロナにより、生活や経済社会は一変し、私たちの価値観まで影響を及ぼしている。
- ポストコロナは「ニューノーマル」になる
- この変革をチャンスと捉え、市民生活を守っていくようチャレンジを続ける！



- ①市民にとって最も大切なのは、安心・安全
- ②いつ起こるかわからない複合災害避難に対するマニュアルづくりは重要課題である
- ③厳しい財政ではあるが、市民に寄り添った予算計画、政策を実施すべきである
- ④市民にとって分かりやすい伝達方法の改革が必要
- ⑤市役所内の部・課を横断したオール掛川での歳出改革が必要
- ⑥選ばれる地方都市への変革で転入人口増、歳入増へ
- ⑦豊かな人づくりによる豊かなまちづくりを

★あなたの夢、★
描いたつづきは
★掛川で。★

これまでの多くの協議会を経て、これから深い審議に入ります。皆様からのご意見をお待ちしています。
アンケートへのご協力をお願い致します。
ご視聴ありがとうございました！

